

平成 28 年度 第 1 回 一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録（要旨）

日 時：平成 28 年 7 月 8 日（金）午前 10 時～11 時 45 分

会 場：一宮市役所 本庁舎 6 階 特別会議室

出席者：委員 15 人、代理 2 人、事務局 6 人、欠席者 3 人

傍聴者：1 人

1・開会

委員交代の報告、部長あいさつ、事務局自己紹介

2・資料の確認

3・定足数の確認と傍聴者の報告

- ・あいち産業科学技術総合センター尾張繊維技術センター長の代理で総務課長出席
- ・一宮公共職業安定所長の代理で次長出席

4・議事

①平成 27 年度「基本目標に係る数値目標指標」及び「重要業績評価指標（KPI）」数値の報告について

◎事務局説明

▽各種指標及び事業の進捗状況等について説明【資料 2、4、5】

- ・数値目標指標及び重要業績評価指標（KPI）について、前年と比較して数値の変化が大きな項目を基本目標別に紹介し、後退した項目はないこと（概ね良好に推移していること）を説明した。
- ・総合戦略策定後に実施した事業を抜粋して説明した。

▽地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）に係る事業について説明【資料 3】

- ・先行して実施した事業の総合戦略での位置づけを説明した。
- ・各事業に係る外部有識者からの評価が概ね有効であったことを報告した。

▽総合戦略の見直しについて説明

- ・各種指標数値も概ね問題なく推移していること、事業開始から期間が短いことから、現時点では総合戦略の見直しは行わず、平成 28 年度 1 年間の成果（次の各種指標数値）を見ながら見直しを検討したいと考えていることを説明した。

◎委員の意見等

- ・数値目標指標及び KPI 数値は平成 26 年度の数値が挙げてあるが、それ以前の数値も載せてほしい。可能であればグラフ化等もしていただけるとありがたい。

事務局：次回以降は資料という形でまとめて提供するよう検討する。

- ・来年度以降、個々の指標の数値の評価に関するガイドライン的なものは用意してもらえるか。

事務局：確かに数値を出しているだけでは意味がないと思う。来年度は事務局の考えとして一定の評価を示したい。

- ・この会議上で委員として事務局に聞いてよいのは数値のことだけか、個々の事業について詳しく聞いてよいのか。

事務局：特段意見の範囲を定めていないので、忌憚ない意見を寄せてもらえればよい。

- ・基本目標1の「創意工夫をした教育内容の実施」の「プログラミング教育」の「技術教員」とは、在籍している教員の中で技術を持った人なのか、コンピューターの専門の人なのか。どのような方か。

事務局：技術科の教員として在籍している教員のことであり、新たに専門の外部の人材を依頼した訳ではない。

- ・技術的なことだけでなく、情報をどう扱うかも教育していく必要がある。現場の先生はたいへん忙しいので、第一線で働くような人を呼んで、先生に対しても子どもに対しても情報をどう扱うかまで教えたほうがよいのではないか。

事務局：プログラミング教育については今年度、外部の人材を起用して、踏み込んだ内容を実施する予定である。情報モラル教育については、データを取り扱う上での情報やSNSなど新しい環境に即した知識を得ることも順次進めていく予定である。

- ・七夕でのイベント、学校施設の空調整備など、計画に沿って動き始めているということだたいへん嬉しく感じる。
- ・夏休みなど、長期休暇時の放課後児童クラブはどうなっているのか。

事務局：昨年度2箇所で夏期限定の放課後児童クラブを実施した。

- ・小中学校の空調整備はPFIの導入との説明があったが、平成31年度に100%実施という計画の目標より前倒しで実施されることになるのか。

事務局：小学校は一斉に整備したいためPFI方式とした。前倒しで完了するかどうかは把握していないが、少なくとも計画期間中には完了する。

- ・「一宮市恋づくり出会い支援事業」は、対象が20歳から39歳だが、民間の同様の事業では年齢がもっと細分化されていたりする。20代前半と30代後半の女性が同じ扱いをされても、30代後半の女性は参加しづらいと思う。

事務局：いろいろな考え方があるかと思うが、幅広く参加してもらえるように、ご意見として担当に伝える。

- ・基本目標4の数値目標指標「市内従業者数」は、その人数を5年後も維持することを目標としていると思うが、平成27年度は一気に14万7千人に増えている。その理由を教えてほしい。

事務局：数値に誤りがあり、正しくは「139,076人」である。

- ・KPI等数値の推移が悪い項目については、だれが担い手で、どのような取り組

みがなされているのか知りたい。

事務局：数値目標の設定や数値の推移把握は、今後どう取り組むかを検討するために行なっているが、今回はそこまで踏み込んでいない。数値悪化の要因を確認する中で、修正すべき点は修正し、追加すべき点は追加する、今後はそのようにやっていきたい。次回以降、そういう形で説明したい。

- ・フリーWi-Fiは多くの箇所でつなげることができてよいと思う。また、防災面でも役立つ取組だと思うが、どの地点でも速度が非常に遅い。利用する場所が悪いのか、利用者が多いのか。

事務局：現時点で特にそういった意見は入っていない。担当に伝えておく。

(会議終了後、ログイン手続きについて事務局より説明し、問題解決)

- ・今回の参議院選挙では期日前投票がi-ビルでも実施されることになった。取組としては一歩進んだと思うが、大型商業施設での開設を望む声が若者の意見として多くある。今後、そのようなことは検討されるか。

事務局：市としても便利だとは認識しているが、二重投票防止システムの構築やセキュリティ等、難しい面があり、仮に実施するとなると金銭面でもかなりの投資が必要だと聞いている。担当には伝えておく。

- ・実質の事業開始は4月なので、説明があった26年度末と27年度末の数値は総合戦略前の状況であって、総合戦略の進み具合を表す指標ではないと思う。今回の会議の位置付けはどのようなものか。また、目標2については大きな変化がなかったので説明なしではなく、今までの状況など、何か伝えられないか。

事務局：計画は、実質的には平成28年度から始まっているが、平成27年度実施事業も一部あるので平成27年度末状況等を参考的にお話をさせていただいた。また、資料3の事業は総合戦略に載せる前提で平成27年度先行実施し、国の交付金を受けているもの。これら事業の評価に基づく総合戦略見直しの有無の報告を国から求められているため、この時期の会議開催になったとご理解いただきたい。

- ・地方創生室はなぜ1年で廃止されたのか。

事務局：当初、総合戦略は1年間で策定しなければならなく、部をまたいで動きやすいよう、地方創生室という独立した部署に専任の職員を配置した。総合戦略策定後は、市の全体の組織を考えた中で、今後の事務量なども考慮し、総合的に考え、既存の組織で引き継いでいこうと判断した。

- ・先行して行われている事業【資料3】は、この会議ではどのように議論すればよいか。個々の事業に関して評価をするのであれば、資料がほしい。

事務局：資料3にあるとおり、事業単位では、個々の有識者会議で既に評価済み。この会議では、これら評価を基に総合戦略全体を議論してほしい。

- ・この事業には既に KPI が設定されているということで良いか。

事務局：交付金を申請する段階で KPI の設定が必要であったため、その時点で設定した。その KPI に基づく評価も各有識者会議の場で既に議論されている。

- ・以前に比べて丁寧に説明されているとは思いますが、全体に資料も説明もわかりにくいので、工夫してほしい。
- ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の役割の違いはどのようなものか。国の所管が違うだけと聞いたことがある。相互補完とあるがよく分からない。両者の一体化に向けて地方自治体から国へ声をあげてほしい。

事務局：放課後児童クラブと放課後子ども教室については、管理体制、学校施設の活用など、様々な課題について総合的に取り組んでいく考えであると聞いている。また、放課後児童クラブの待機児童については、施設整備が必要となるのでなかなか難しい面があると聞いている。

- ・保育所の待機児童数 0 (ゼロ) とは、4 月 1 日現在の状況ではないか。年度途中ではまず保育園には入れないという実感がある。年度途中でも入園できる仕組みづくりにスピード感を持って取り組んでほしい。基本目標 1 の数値目標である「合計特殊出生率 1.56」は大変難しい数字だと思うが、待機児童対策にかける本気度を見せることが、一宮市にとってもプラスだし、他の市町にも影響を与えたいと思う。

事務局：年度途中に一時的に待機児童が出て、数ヶ月で解消することもあるようで、できる限り対応しているとは聞いている。意見については担当に伝える。

- ・「一宮のおいしい水」の需要はどれぐらいあるか。製造過程なども示すことで、PR 効果も上がるのではないか。

事務局：一宮市の良さを市外に PR していくことがこの事業の主旨である。

7 月 1 日販売開始で実績値はまだないが、需要については今後注視していきたい。

- ・前回までの会議は、他市にない一宮市独特のもので盛り上げていこうという感じだったが、今日は、とりあえず 1 年間の結果を見てみましょうという感じで、気持ちが入りづらかったような気がする。部署が変わり、戦略を作った後はチェックだけでいいという風に方向転換したのかなとも思えた。一宮市の認知度を高めていくことにもう少し頑張ってもらいたい。

事務局：今回の会議は、戦略策定から 6 ヶ月しか経過していないので、振り返るには少々早い時期の開催であったと思う。来年度以降になるかもしれないが、取組について一定の結果が出てくると、より具体的なご意見をいただける状況になるかと思う。そういった形で少しずつでもこの会議を盛り上げていきたい。

- ・今までの意見に対して少し発言させてもらいたい。地方創生室の廃止については、私の中では当初の予定通りである。計画を作るということは、相当なエネルギーがいる作業であるので、専任の職員・各部の兼務の職員を置き、地方創生室という組織を作ったが、計画の完成により、地方創生室は役目を終えたと考えている。今後は各事業の担当課が力を入れて事業を進めていき、企画政策課は進捗管理等が主な仕事となる。限られた人材の中でのことなので、ご理解いただきたい。
- ・放課後児童クラブの整備にスピード感がないとのご指摘があったが、本来施設の建設は2年かかるところ、リースにより単年度で完成させ、次の4月には運用を開始している。一宮市はその設置にかなり力を入れていると自負している。
- ・「一宮市のおいしい水」は、市のイメージアップという側面がある。伏流水を加熱殺菌のみしたもので、塩素が入っていない。また、空気が入っておらず、完全に水だけで出来ているので5年間の保存が効く。各家庭での保存水として、防災面での役目も果たしてほしいと考えている。
- ・事業担当部署の方のこの会議への出席について検討してもらいたい。

事務局：今後検討し、調整させていただきたい。

- ・「おいしい水」が人口減少を食い止めることにどうつながるかわからない。今回、事業と指標数値を全部並べているが、その事業が、人口減少を抑えるためにどうアプローチしているかをダイレクトに効果測定する必要があると思う。基本目標にあてはまらないものを書く必要はないと思う。進捗度を測るのであれば、市全般のことではなく、人口減少を食い止めるという視点で整理してほしい。

事務局：戦略の中で、いくつかカテゴリーを設けたが、水に関しては、シティプロモーションという一宮市の知名度を上げるという分野に属している。本事業は、一宮市は水がおいしいまちであるということを知ってもらうという目的の事業の一つとして捉えている。人口減少には歯止めをかけるのには、水がおいしいというまちであるということ、知名度が上がり、じゃあ一宮市に住んでみようという方も出てくる可能性もあるので、広義に活用していきたい。

- ・ここでの私たちの意見は、事務局から各担当部署に伝わるだろうが、一つの意見として終わってしまうのではないかという不安がある。担当部署を交えてダイレクトに議論したいが、事前に必要な部署を挙げ要望すれば、出席してもらうことは可能なのか。

事務局：この会議は、各部長で組織する推進本部で議論してできた案を提示したり、この会議で出た意見を推進本部に報告したりしながら進めてきた。ご心配のようなことがないよう、今後もこの形で全庁的に共有しながら進めていきたい。担当の出席については可能な限り対

応し、実りのある会議の場とさせていただきたい。

- どの連区長、町会長に聞いても、未婚の男女が多いと言われる。結婚したくてもできない人が多いと感じる。男性は45歳前後の未婚者も多くいるので、先ほどの恋づくり事業に関しては、女性が39歳だったら、男性は45歳くらいまで参加者の対象を広げて良いのではないかな。
- 人口減少対策としては、若いご夫婦に他市から一宮市に来てもらうことが大切。そのためには、一宮市でも遅ればせながら先般実施された子ども医療費の無料化のようなことが有効。次は、高校の無料化が有効だと思う。費用の捻出は難しいだろうが、工夫して若いご夫婦を呼び込み、人口が増えるように考えないといけない。

事務局：参考にさせていただく。

- 水は売れるのか。日本には名泉も多いので、「一宮の水」で美味しいというイメージはわからないと思う。コンビニでは売っているのか。

事務局：シティプロモーションの材料を限られた資源の中で探した結果、「一宮の美味しい水」はその一つであると判断した。「一宮の美味しい水」が全国区に広がるよう地道にPRを続けていきたい。水は、しばらくの間は宅配もするが、現時点ではコンビニでの販売は考えていない。

- 保存水は意外に高い。5年持つ水が80円なら購入したいと思った。「一宮の美味しい水」は、特産物という観点からは疑問があるが、防災の観点では良いものだと思う。
- フリーWi-Fiはすごいと思ったが、観光といいながら公民館で提供していることに疑問を感じる。一つのことすべてを盛り込むので疑問点が出てきてしまう。
- 保育所がみつからず退職する事例が身近にもあった。0～2歳児の定員枠は取り合いになっている中で、年度途中の入園はやはり難しい状況だと感じる。小さな現状も一つひとつ把握して住みやすいまちにしていけないといけない。

事務局：ありがとうございました。意見については担当に伝える。

5・その他

①来年度以降の会議の進め方について事務局の考えを報告

- 年2回程度開催することを考えている。
- 1回目は7月頃に開催。前年度末の進捗状況に基づく総合戦略の見直しについてご意見を伺う。
- 2回目は10月頃に開催。7月の会議でのご意見を基にした総合戦略の見直しについて確認させていただく。

②地方創生推進交付金の活用に係る本推進会議の役割について説明

- 総合戦略に基づく事業を支援する交付金があり、現在活用を検討している。交付

金を活用するなら、地域再生計画の作成及び事業年度ごとの外部有識者による効果検証を行う必要がある。

- 時期は未定だが、この推進会議での効果検証（KPI 評価）をお願いしたいと考えていることを説明した。